

新除草・調節剤

アージラン液剤 ASULAM除草剤

(取扱メーカー) 塩野義製薬株式会社

対象: 牧野草地

性状・作用特性: 本剤はN-メトキシカルボニルスルファニルアミドナトリウム塩を37%含む液剤で、非ホルモン型の吸収移行型除草剤である。本剤は雑草の発生前から生育期に土壤処理または茎葉処理することによって、一年生イネ科雑草、一年生および多年生広葉雑草に強い殺草力をもつことが認められている。特に、従来から牧草草地において防除が困難とされているワラビ、ギンギン類およびフキ等の多年生有毒雑草または強害草については、選択的に枯殺する特性を有する。

動物毒性・残留毒性: 本剤の哺乳類に対する毒性は、マウス、ラットともに急性経口毒性 $LD_{50}=17,000\text{ mg/Kg}$ 、静脈注射 $LD_{50}=5,000\text{ mg/Kg}$ 以上、急性経皮毒性 $LD_{50}=15,000\text{ mg/Kg}$ 以上、局所刺激性(ウサギ結膜)は15,000ppm以上で、使用者にきわめて安全である。また、魚類(稚ゴイTLM(48)4,000ppm以上、ニジマスTLM(48)5,000ppm以上)、鳥類(ニワトリ、カモ、ハト)、昆虫(カイコ、ミツバチ)にも毒性はほとんど認められず、動物に対しても安全性は高い。

牧草における残留量も低く、たとえ乳牛体内

に取り込まれたとしても速やかに尿または糞より排泄され、乳中への分泌はほとんど認められない。また、本剤はハロゲン、重金属は含まず牛乳における残留も認められない。

使用方法: ワラビを対象とする場合、維持管理や更新などの目的に応じて10a当たり製品量500~1,500ccをワラビ展開期に全面散布する。すなわち、草地等における選択的防除では10a当たり1,000cc以下、造成前、更新および群生地処理では10a当たり1,000cc以上の製品量を散布する。散布時期はワラビ展葉期であればいつでもよいが、8月以降散布では使用当年、効果の発現が認められない場合がある。以上いずれの場合でも本剤のワラビに対する効果は茎葉部より吸収された薬剤が、ワラビ地下茎の分化およびその発生を抑制するのでその効果の発現は遅効的である。

なお、ギンギン類およびフキ等の雑草を対象とする場合は10a当たり製品500cc~600ccを秋から春のギンギン、フキ展葉時に1回または2回に分けて全面散布する。局部処理または群生地処理の場合は10a当たり製品1,250cc以上を雑草展葉時に散布すればよい。

使用上の注意: 本剤の牧草草地での散布に当たっては、雑草の茎葉部によくかかるように散布することが必要である。なお、本剤は速効型除草剤でないので、効果の完成にはかなりの日数が必要である。

編集後記

暦の上で処暑は8月24日となっているが、今年はこれより10日も早いようだ。

北海道北見地方では、夏だということに最低気温が5℃であったという。これでは、除草剤の使い方を誤るのも無理からぬこと。

現在登録中の除草剤は、気温に左右されるものが多いので、このような異常気温の年には、とくに注意する必要がある。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
東話 東京(03)502-4188(代)

昭和46年8月発行

第5巻第5号

¥70(送料35)

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)436-3388番